

### 1-3 アレルギー疾患を有する児童生徒への指導

アレルギー症状の出現を防止するためには、アレルゲンを避けることが必要不可欠です。

特に、食物アレルギーは安全性確保のため、原因食物の完全除去を原則とし、誤って配膳したり、誤食したりすることがないようにすることが大切です。また、児童生徒が自ら食品成分表や献立表を参照し、アレルゲンを避けることのできる資質・能力を育むことも重要となります。

そのためには、保護者と十分に協議した上で、個々に応じた保健教育を行うことが大切です。

#### 児童生徒の心身の健康の保持増進に向けた取組（例）



（引用「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」平成29年3月 文部科学省）

#### ◆ 心身の健康に関する知識・技能

- アレルゲンとなる原因物質を摂取したり、接触したりすると、アレルギー症状を発症することを理解できるようにする。

- ・緊急時処方薬（内服薬、吸入薬、アドレナリン自己注射（以下、エピペン））について正しく理解し、自己管理ができるようにする。

#### ◆ 自己有用感・自己肯定感（自尊感情）

- ・生活習慣が原因でストレスを感じた場合、ストレスへの対処法を身に付け、精神的に安定した学校生活を送ることができるようにする。

#### ◆ 自ら意思決定・行動選択する力

- ・アレルギー症状が出現しないために、アレルゲンとなる原因物質を摂取したり、接触したりしない力を身に付ける。
- ・学校給食において、食品成分表や献立表に記載されている原因物質を食べないようにする。

#### ◆ 他者と関わる力

- ・他の児童生徒からアレルゲンとなる原因物質を勧められた場合、必ず理由を丁寧に説明し、断ることができるようにする。
- ・誤ってアレルゲンとなる原因物質を摂取したり、接触したりし、体調不良を起こした場合、周囲の児童生徒や教職員に知らせることができるようにする。